運用設計入門コース (ワークショップ 第4回)

運用の定義

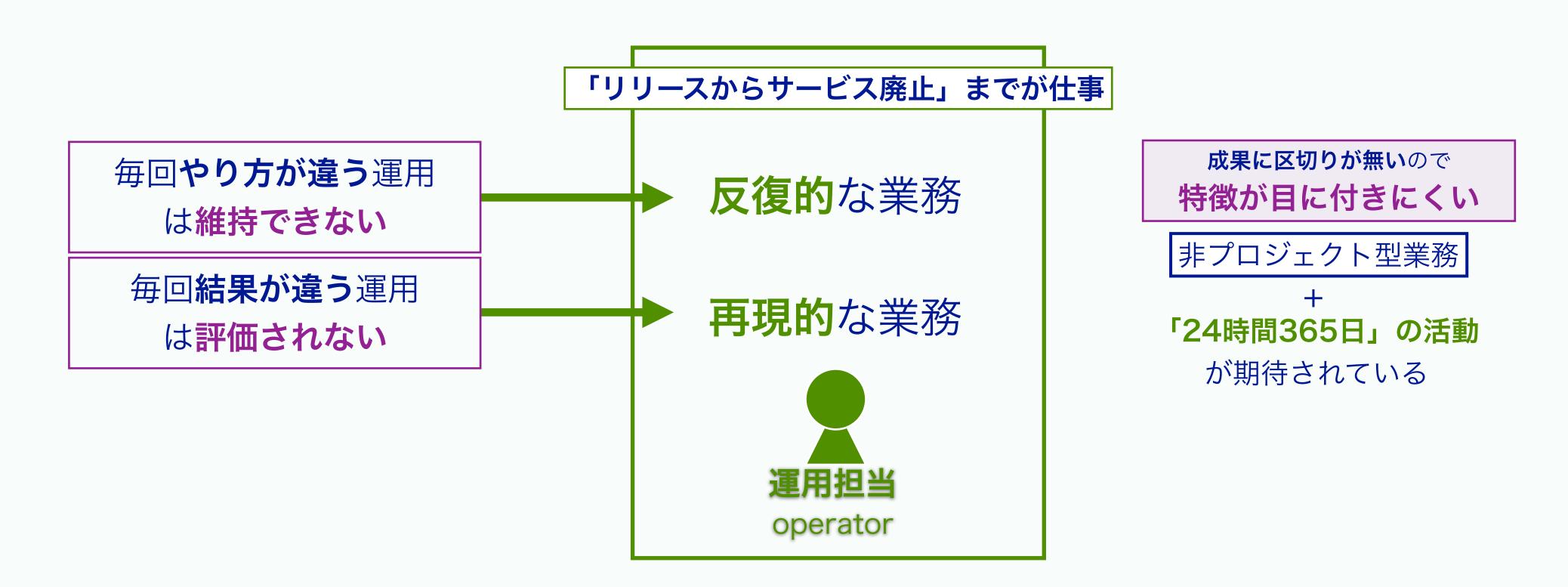
運用設計ラーニング

2024-01-15

復習

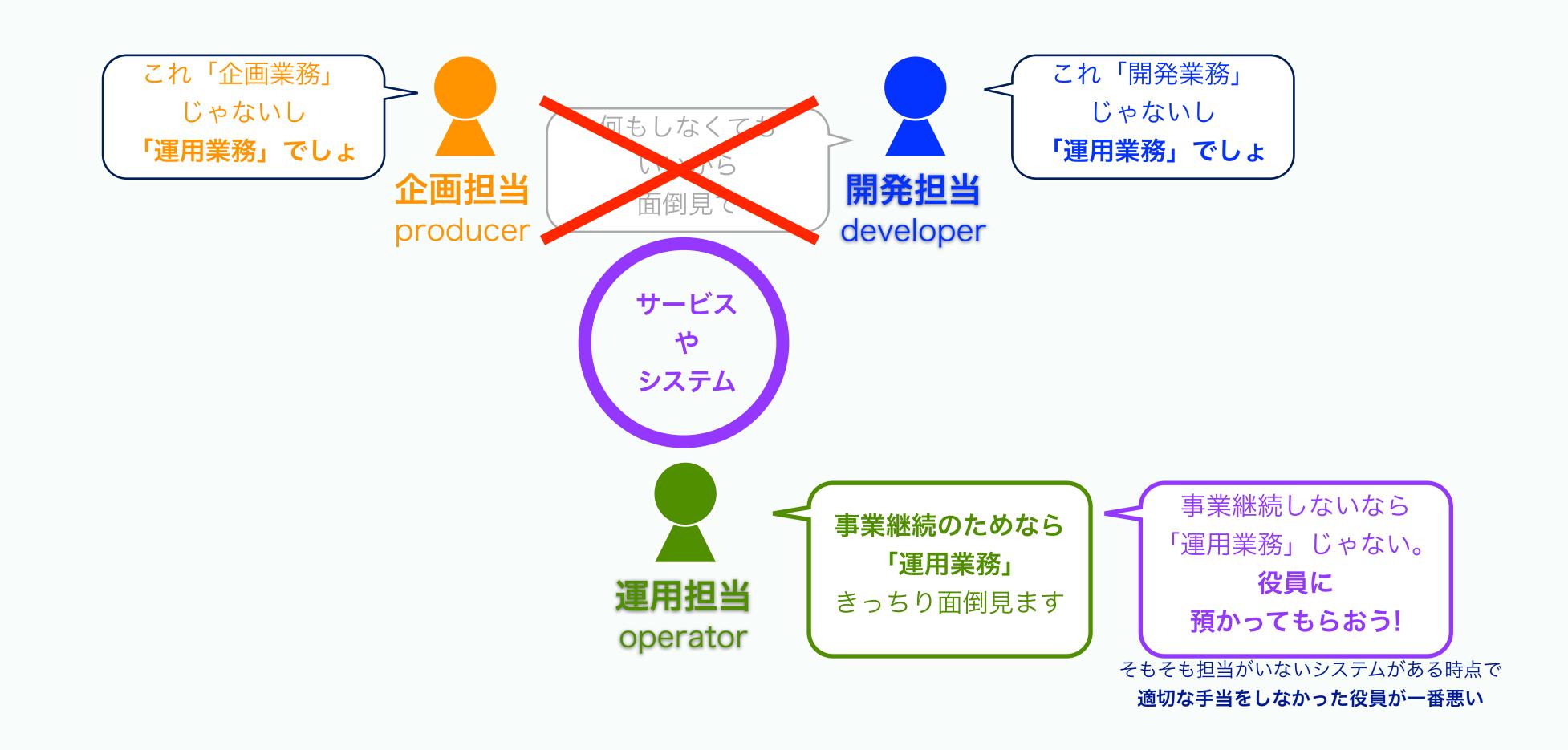
運用の特徴

目に見えにくいだけで、運用には「運用の専門性」がある



決して「なんでも屋」ではない。明確にすべき「専門性」がちゃんとある。

運用の専門性は「事業継続に関する全て」



運用の専門性は「事業継続」に関する全てが対象になり得る

IT技術も大事。しかしIT技術だけで「運用」をしていくことはできない。

戦略と戦術を繋げて実現する人が必要 (作戦スキル)

事業継続のための専門性

運用業務の需要に対して最適な供給を実現する

包括的な専門技術

陳腐化しにくい

戦略

立案と遂行

Strategy

運用設計、サービスマネジメント、障害対応指揮などの 企業経営に近接した抽象度の高い専門技術を持つ



戦略に戦術をつなぎ込む (最適な進路を決定する)



事業継続を支える専門性

戦術

提案と実践

Tactics

最適な供給を実現するために必要な

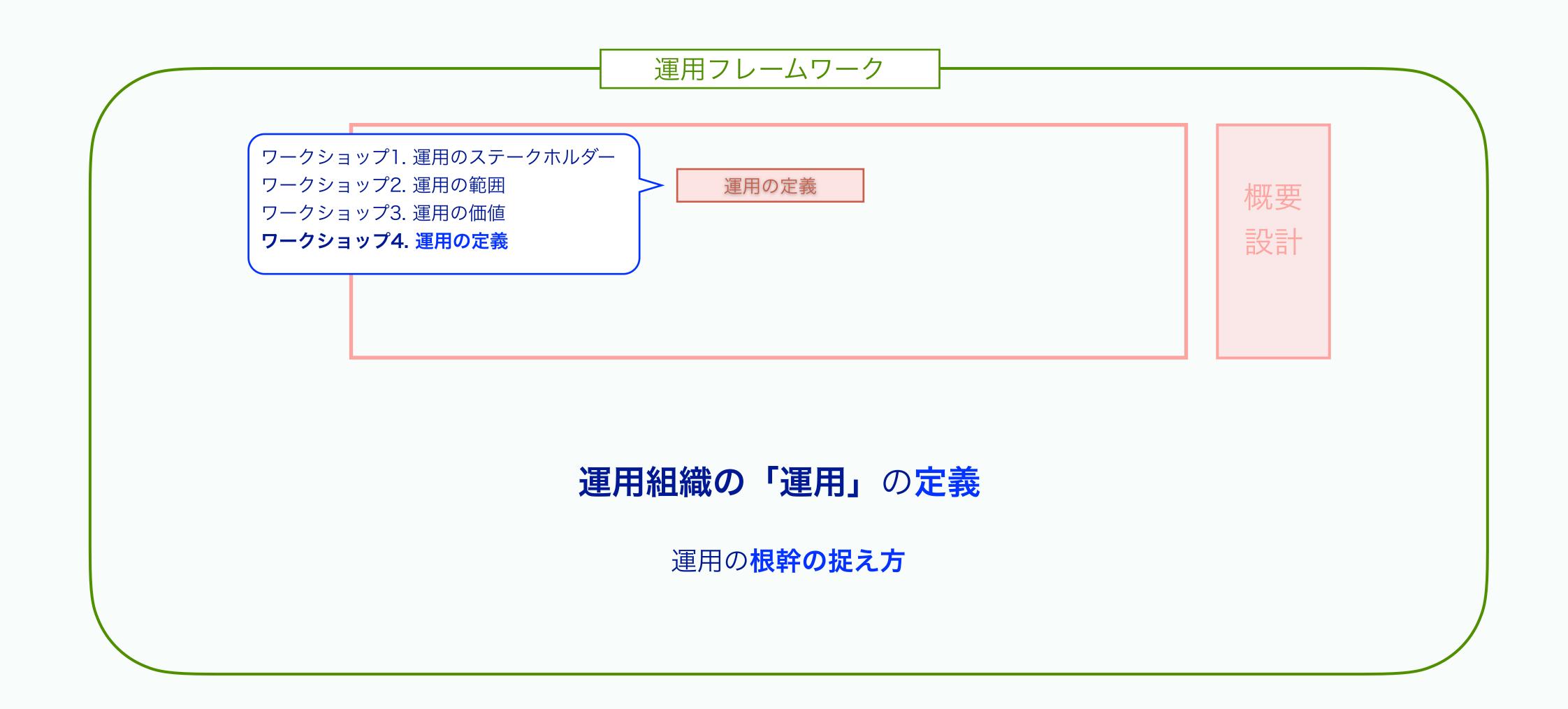
各種の専門技術

変化が激しい

特定領域(ネットワーク、サーバ、ソフトウェア、セキュリティなど) に高い専門技術を持つスペシャリスト

学習ガイド

ワークショップの位置付け



ワークショップは「実務に向けた準備」

運用フレームワーク

ワークショップ1. 運用のステークホルダー

ワークショップ2. 運用の範囲

ワークショップ3. 運用の価値

ワークショップ4. 運用の定義

運用の定義

概要 設計

ワークショップの受講と並行して

「運用フレームワーク」の実装に向けて社内で活動が必要となってきます。

- ・運用ダッシュボードの実装
- ・講義の復習
- ・ 社内での議論、フレームワーク要素の整備(公式化)

今回のワークショップのテーマ

事業継続のための「運用」とは何か

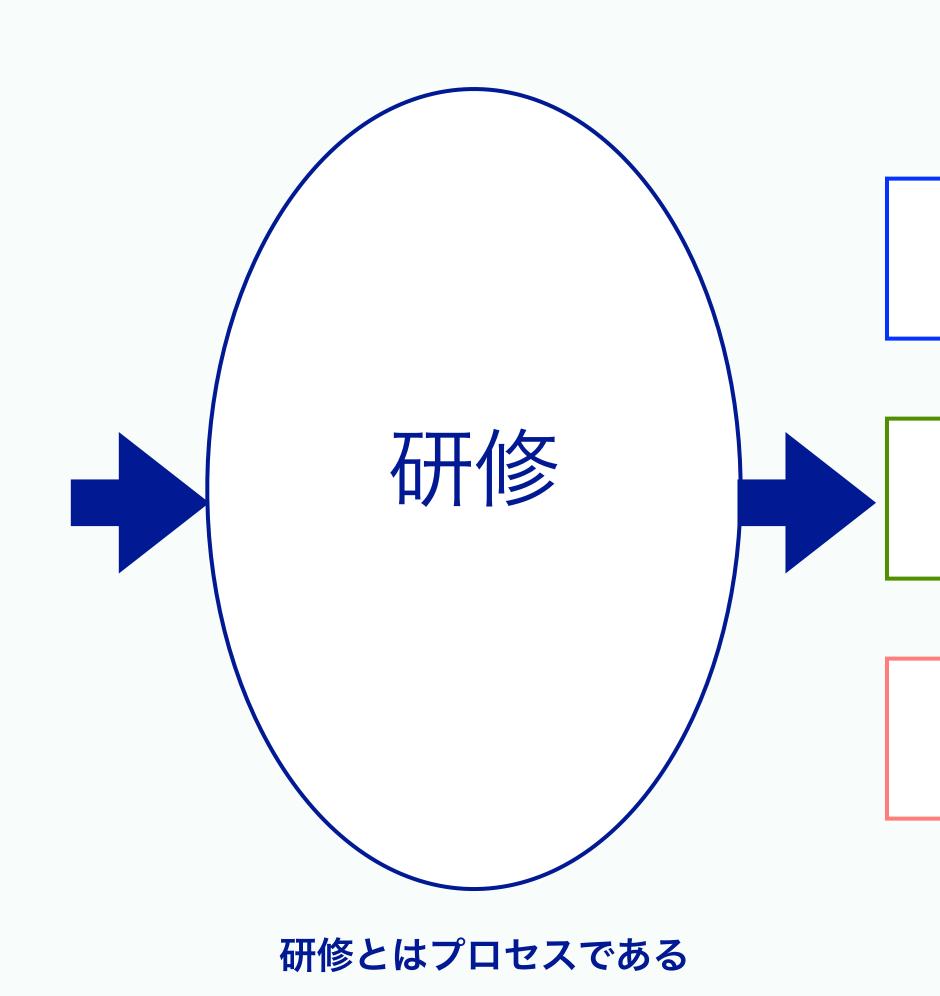
研修による変化 (受講者への期待)

Before

「事業継続」観点での 運用の定義や専門性について 個人的に考えたことが無かった

「事業継続」観点での 運用の定義や専門性について 組織的に議論したことが無かった

「事業継続」観点での 運用の定義や専門性について 組織的に議論したことはあった



After

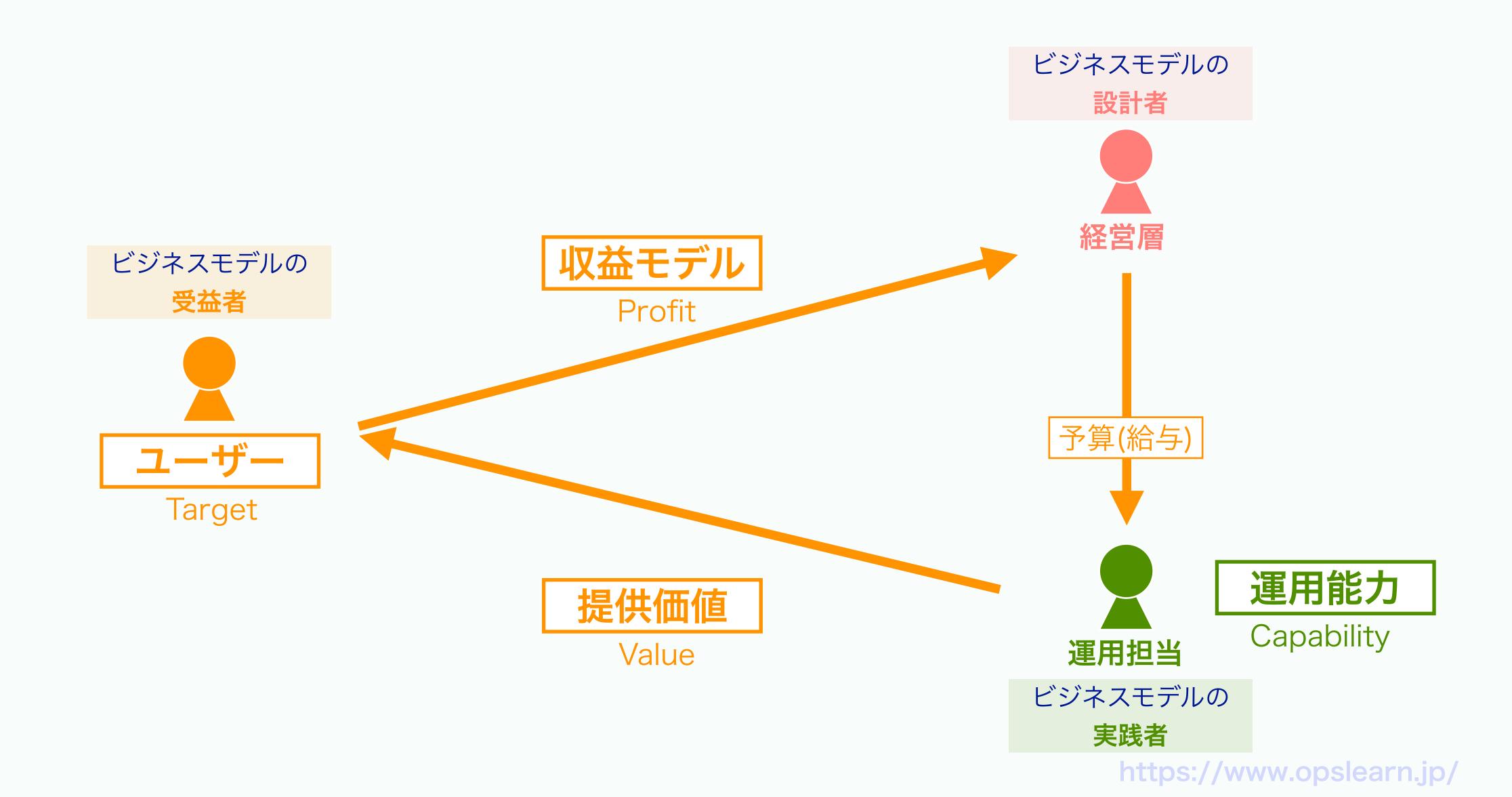
「事業継続」観点で 自分達の運用の定義や専門性について 個人的に深く考察するようになる

「事業継続」観点で 自分達の運用の定義や専門性について 組織的に活発に議論するようになる

「事業継続」観点での 自分達の運用の定義や専門性について 継続的にブラッシュアップするようになる

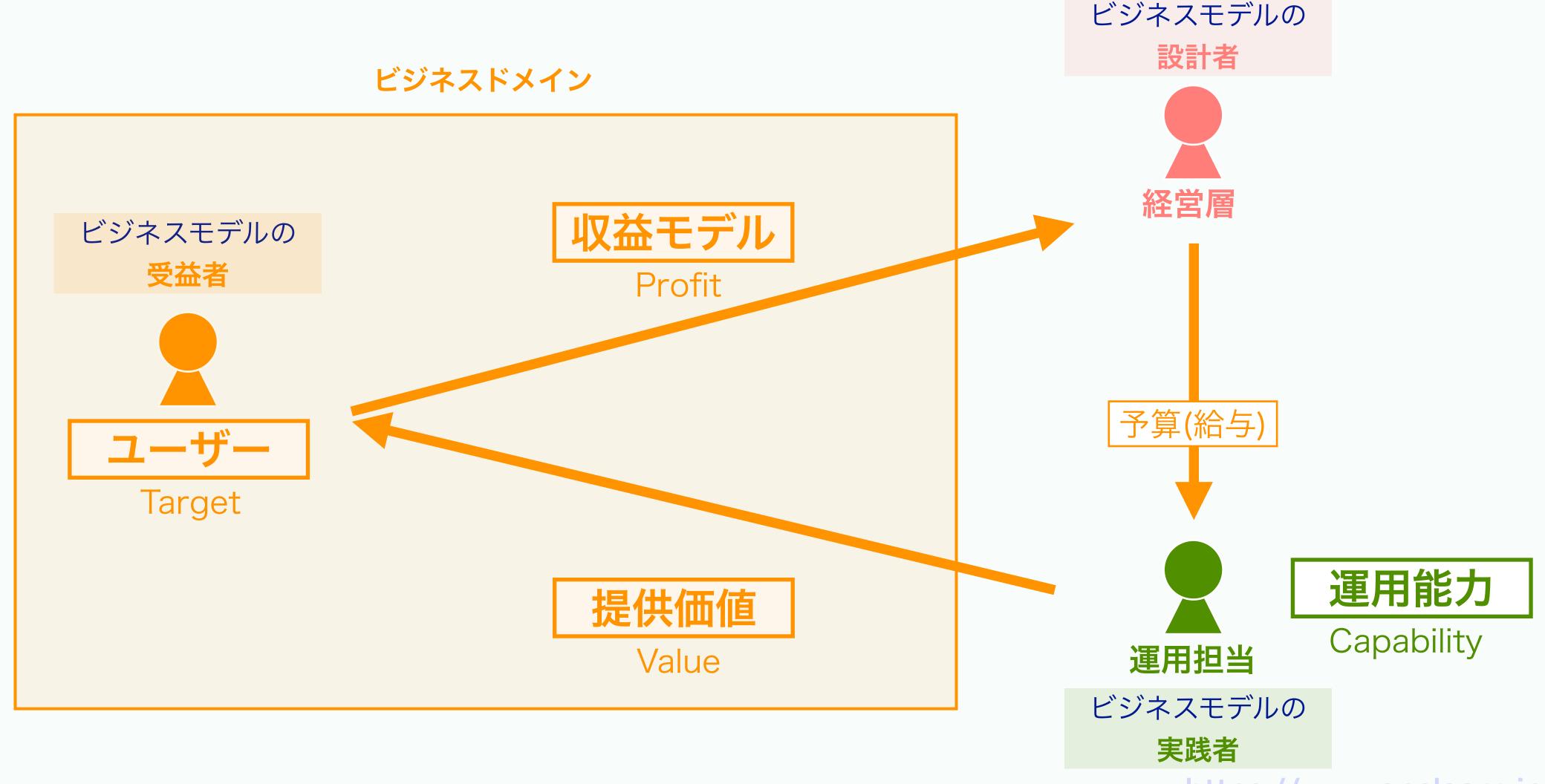
ワークのためのレクチャー

復習:「ビジネスモデル」におけるステークホルダー (基本形)



ビジネスドメイン

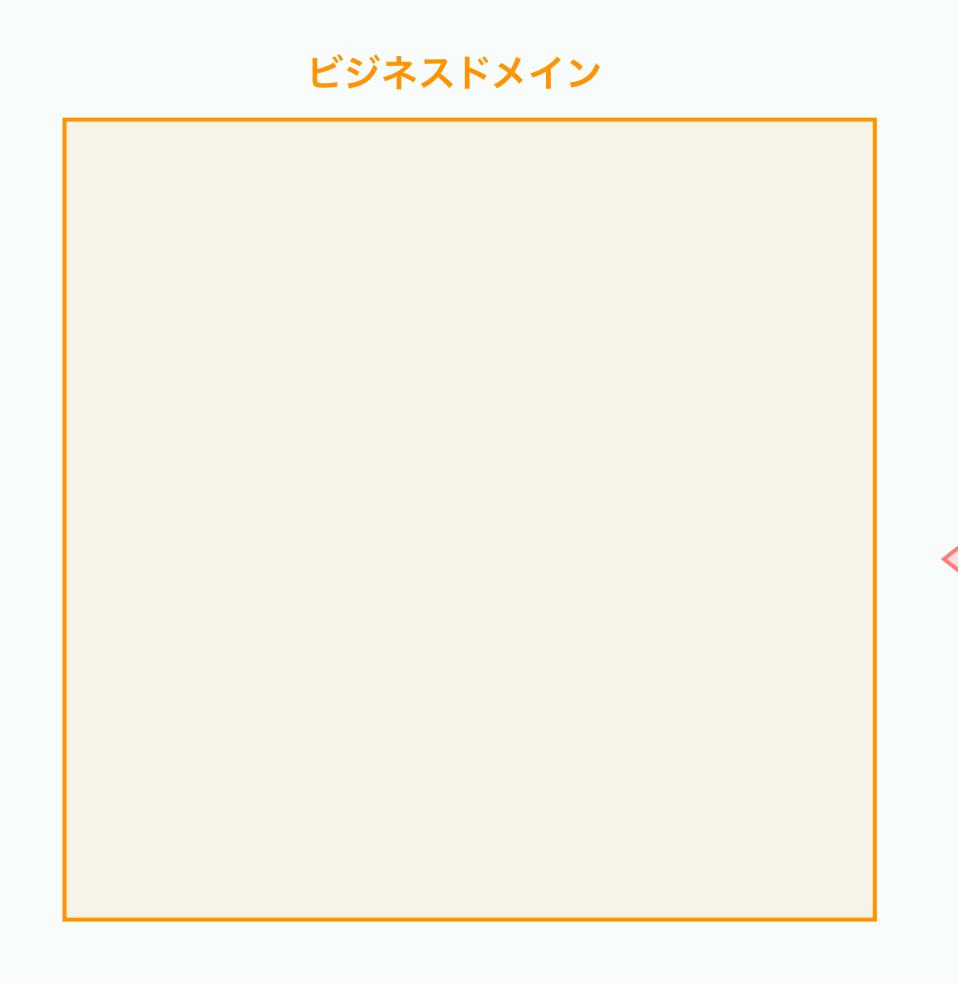
企業が経済活動を展開する事業領域 (特に主力事業)



https://www.opslearn.jp/

ビジネスドメインはどのように決まるか?

会社の定款に書かれている「目的」から決まる



ビジネスモデルの設計者



会社の定款

目的

会社の目的の範囲で

ビジネスドメインが決まる

- 1. xxx
- 2. xxx
- 3. xxx
- 4. 前各号に付帯又は関連する一切の事業

定款を変更するには 株主総会の特別決議が必要

「運用」とビジネスドメイン

「会社の定款に書かれている事業の全て」が「運用」による「事業継続」の対象

ビジネスドメイン

会社の目的全てが 運用の対象になり得る

会社の目的全てが ビジネスドメインとなり得る

会社の定款

目的

- 1. xxx
- 2. xxx
- 3. xxx
- 4. 前各号に付帯又は関連する一切の事業

多様なビジネスドメインの事業継続に **運用組織の専門性が活きる可能性**がある





運用能力

Capability

ビジネスモデルの実践者

https://www.opslearn.jp/

定款から見る「運用」

会社の目的全てが 運用の対象になり得る

会社の定款を見てみましょう

多様なビジネスドメインの事業継続に **運用組織の専門性が活きる可能性**がある

会社の目的全てが ビジネスドメインとなり得る

会社の定款

目的

- 1. xxx
- 2. xxx
- 3. xxx
- 4. 前各号に付帯又は関連する一切の事業



運用能力

Capability

ビジネスモデルの実践者

https://www.opslearn.jp/

ワークの全体像

ワークの全体像

ワークの全体像

ワーク1. 現在の運用と「定款」

現在の運用は、定款のどの「目的」に含まれるビジネスなのかを分析します。

ワーク2. 「定款」から考える新たな運用サービス

定款の目的の範囲内で、**現在の運用の専門性を活かしたビジネス**を検討します。

ワーク1. 現在の運用と「定款」

定款における「現在の運用」の位置付け

ワーク1. 現在の運用と「定款」

「現在の運用は、定款のどの「目的」に含まれるビジネスなのかを分析します。

- ・定款の目的から、現在の運用が属する項の番号を記述します。
- ・(余裕があれば、項の本文も記述してください。)
- ・複数の項目に属する可能性があれば、全ての項の番号を記述してください。

ワーク2. 「定款」から考える新たな運用

定款の範囲での「運用の専門性」の活用

ワーク2. 「定款」から考える新たな運用サービス

定款の目的の範囲内で、現在の運用の専門性を活かした運用サービスを検討します。

- 1.新しい運用サービスが属する「会社の目的」の項番号を記述します。
- 2.新しい運用サービスにおけるユーザーと提供価値を記述します。
- 3.新しい運用サービスと現在の運用サービスの共通部分を記述します。
- 4.新しい運用サービスと現在の運用サービスの差異部分を記述します。
- ・現在の運用組織の人員とリソースを活用することとします。
- ・それ以外は、特に制約は無いものとします。

成果物

成果物

運用定義シート

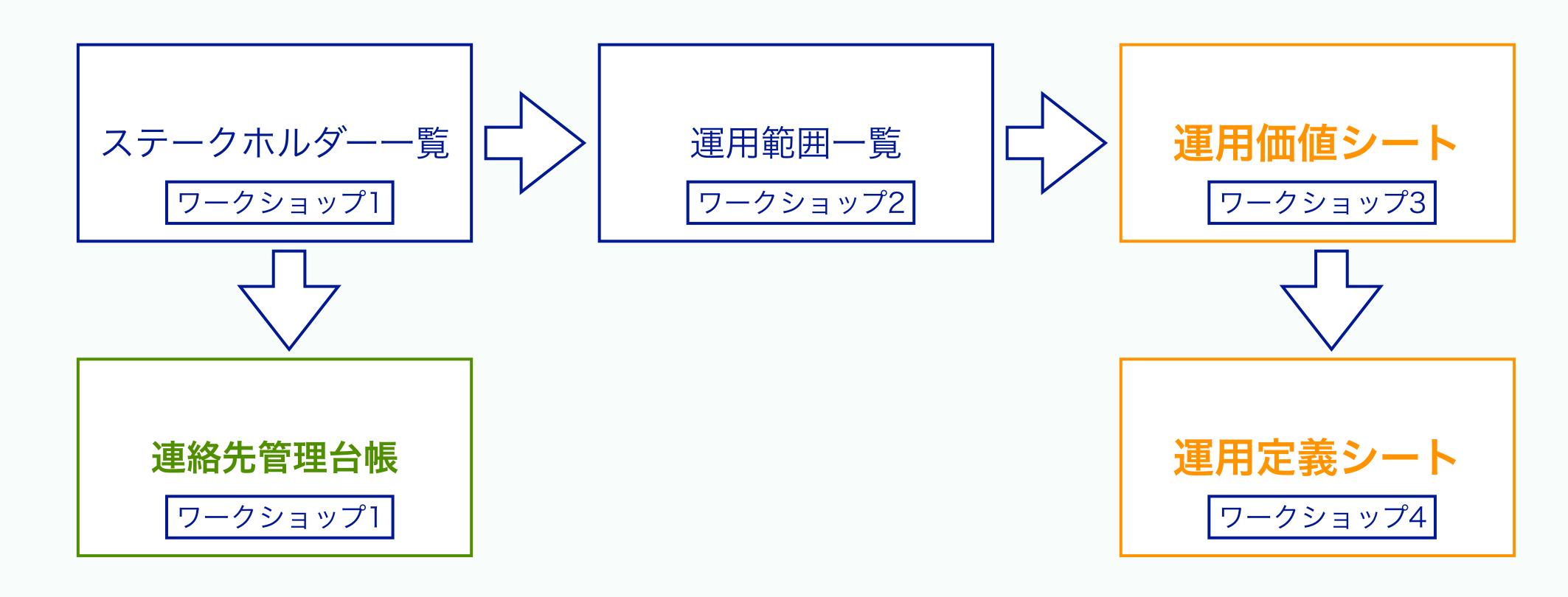
運用サービスの専門性(特徴)の明確化

運用定義シート

これまでの成果物の位置付け

運用設計の流れ

運用サービスの提供先と範囲に対する価値、専門性の明確化



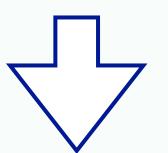
https://www.opslearn.jp/

今後のアクション

今後のアクション

自分達の「運用の定義」を明確化するために 「運用定義シート」を精緻化していきましょう。

運用定義シート



自分達の「運用の定義」を明記

参考: 「運用の専門性」と「サービスカタログ」

運用フレームワーク

概要設計

最終ToBe

運用のあるべき姿

中間ToBe 現時点のあるべき姿 (概要) (組織レベル)

運用の定義

期待分析・成果設計

サービスカタログ

運用組織設計

中間ToBe (詳細) 現時点のあるべき姿 (業務レベル)

業務プロセス設計

作業カタログ設計

運用基盤設計・整備

運用の定義

4. 運用の定義

- 3. 運用の価値
- 2. 運用の範囲

ステークホルダー分析

1. 運用のステークホルダー

詳細設計

運用の防壁

「守り」の部分

運用の羅針盤

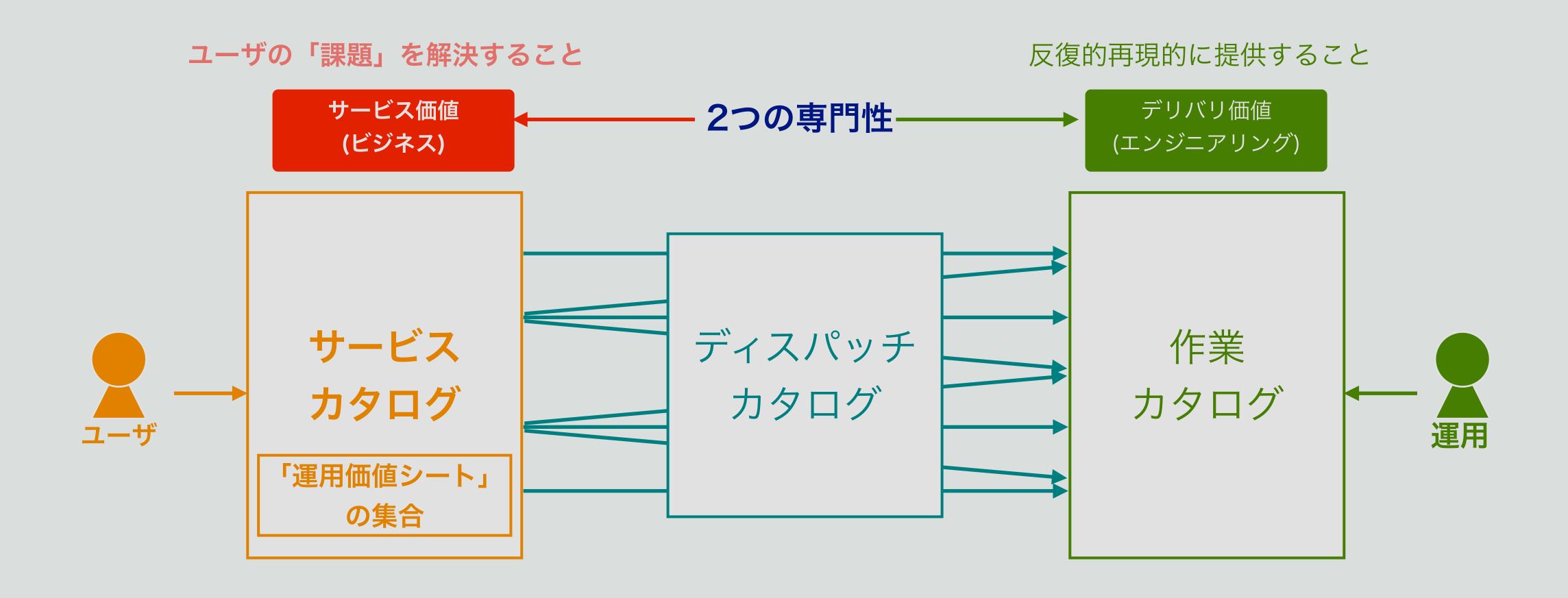
「攻め」の部分

Asls 現状の把握

改善スキーム設計

運用作業の測定

参考: 「運用の専門性」と「サービスカタログ」



詳細は、今春リリース予定の「運用設計基本コース」で解説予定です。

講義のふりかえり

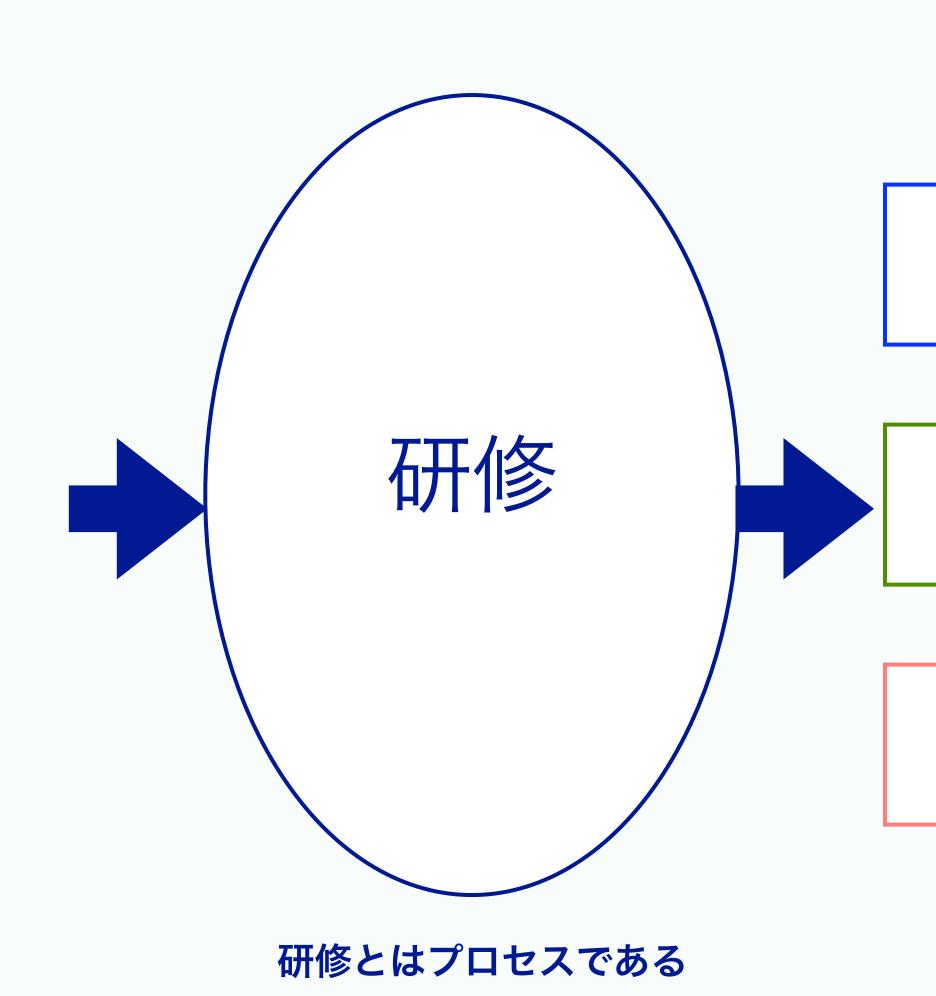
研修による変化 (受講者への期待)

Before

「事業継続」観点での 運用の定義や専門性について 個人的に考えたことが無かった

「事業継続」観点での 運用の定義や専門性について 組織的に議論したことが無かった

「事業継続」観点での 運用の定義や専門性について 組織的に議論したことはあった



After

「事業継続」観点で 自分達の運用の定義や専門性について 個人的に深く考察するようになる

「事業継続」観点で 自分達の運用の定義や専門性について 組織的に活発に議論するようになる

「事業継続」観点での 自分達の運用の定義や専門性について 継続的にブラッシュアップするようになる

今回のワークショップのテーマ

事業継続のための「運用」とは何か

https://www.opslearn.jp/